

釧路労災病院における映像ソリューション導入事例

映像機器刷新による検査室環境改善の取り組み

釧路労災病院様のご紹介

北海道釧路市に位置する独立行政法人労働者健康安全機構釧路労災病院は道東地区唯一の労災病院として、勤労者医療を中心に、急性期医療やがん診療など専門性の高い医療を地域に提供しています。

病床数は391床を有し、診療科目は総合内科、消化器内科、腫瘍内科、血液内科、循環器内科（出張医）、神経内科、外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、口腔外科、麻酔科と多岐にわたります。

最新知識と技術、良質で信頼される医療の実践を目指す当院の理念に基づき、変革する医療体制に柔軟に対応しながら、地域医療を支え、人に寄り添う医療を実践しています。



導入経緯

選ばれる理由は豊富な実績と信頼

検査室のスペースが限られる中、映像切替や録画操作の煩雑さに加え、音声の伝わりにくさや床面に集中する配線の影響により、業務に集中しづらい場面があり、日々の負担となっていました。

そこで2025年11月、多目的デジタルX線TVシステム（Ultimax-i / キヤノンメディカルシステムズ株式会社）の更新にあわせ、表示から配線インフラまでを見直し、映像・音声・配線を一括で整備することで、より作業しやすい検査室環境の構築を進めることとなりました。現場の動線や運用に配慮し、周辺環境を一体的に整えるため、ヒビノへご相談いただきました。



釧路労災病院 中央放射線部 診療放射線技師

泉浦 祐子 様 木内 陽葉 様 主任 寺本 晶 様

導入から約1か月が経過した時点で、日常的に使用している技師3名にお話を伺いました。

「H-1A」録画機（2ch透視連動録画）

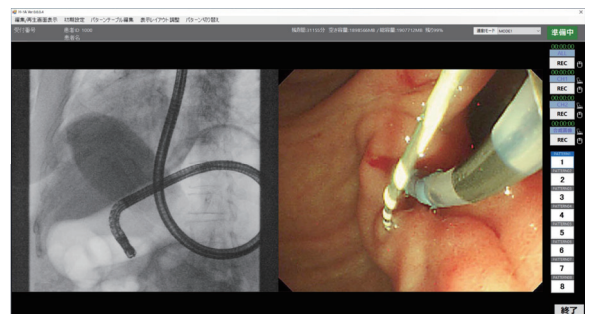
確実な記録と直感的な操作により大幅な負担軽減

従来の課題 複数映像の同時記録 / 患者ID管理 / 録画操作の煩雑さ / レイアウトの切り替え

採用した2ch透視連動録画装置「H-1A」は、従来モデルの操作性を踏襲しつつ、患者ID自動取得機能「AutoID」（ファイル名自動反映）と2系統の個別録画を搭載した後継機です。録画映像レイアウトは検査内容に合わせて柔軟に構成でき、直感的なGUIで短期間に習得可能です。日常業務の効率化と作業負担の軽減を図れます。



患者ID自動取得動作



個別録画/PinP録画対応 ※画像はイメージです

中央放射線部 診療放射線技師様の声

画面は分かりやすく、現場としては比較的スムーズに使用できています。AutoIDも日常運用の中で問題なく使えています。Windowsベースでファイルを扱える点も、使い勝手の良いところ。現状はPinPでの運用が中心ですが、画質を優先したい場面や現場の要望が出た場合には、個別録画の活用も検討できると考えています。

釧路労災病院
中央放射線部

診療放射線技師
木内 陽葉 様



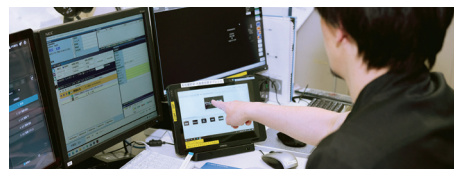
「大画面モニター」「タブレットリモコン」ソリューション

視線はそのまま 全て把握できる利便性

従来の課題 分散される画像/映像の切り替え

映像を大画面に集約することで視線移動を抑え、全体状況を一目で把握しやすくなりました。大型モニターはタブレットリモコンで直感的に操作でき、レイアウト切替えや映像ソースの選択を業務の流れを止めずに迅速に行え、作業性が向上しました。

さらに、ヒビノ独自のシンプルなシステム構成により機器点数を抑え、配線や機器管理の負担軽減につながる点も導入のポイントになりました。



中央放射線部 診療放射線技師様の声

タブレットの操作は分かりやすく、切り替えもスムーズです。普段は映像の切り替えが中心で、レイアウトは検査前に確認したり、先生から要望がある時に調整しています。大画面に集約して確認できるようになった点は、以前と比べて大きい変化だと感じています。

釧路労災病院
中央放射線部

主任
診療放射線技師
寺本 晶 様



透視連動ライト

点灯がサイン 職業被ばく対策の視覚的な実現

従来の課題 検査室内における透視中状態の共有

透視開始と同時にライトが点灯し、検査室内で「透視中」を一目で共有できます。立ち位置の判断や距離の確保を促し、職業被ばく対策の徹底や安全意識の向上に寄与します。

本ライトは現場の声を踏まえ、明るさ・LEDサイズ・取付位置を調整した設計となっており、日々の安全運用を下支えしています。



中央放射線部 診療放射線技師様の声

透視中かどうか一目で分かるので、分かりやすいと思います。途中から入室した看護師さんでも、わざわざ『今出てますか』と聞かなくても状況が把握できるので、使いやすいですね。点灯している時は気をつけよう、という共有もしやすいと思います。



コネクターボックス(窓枠設置型)

限られた空間を有効活用 配線悩みとクリーン環境

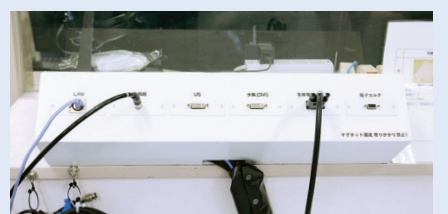
従来の課題 床面へのケーブル集中に伴う、移動/清掃時の取り回し

検査室では床面にケーブルが集中し、移動や清掃の取り回しが課題でした。天井走行型は工事・費用面で断念し、ヒビノの現場適合ノウハウを活かして窓枠のデッドスペースにコネクターボックスを設置。配線を集約・整理し、差し替えや清掃、準備から片づけまでの負担を軽減しました。



中央放射線部 診療放射線技師様の声

以前は配線がバラバラで分かりにくかったですが、今は“ここだけ挿せばいい”という形でまとまっているので使いやすいです。差し替えは今のところ多くないですが、この高さにあるのは扱いやすいと思います。

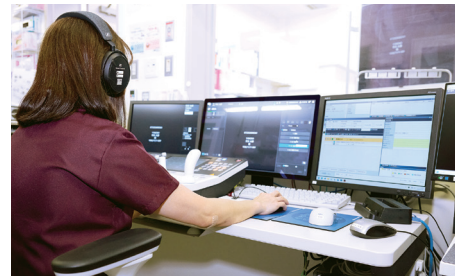


音声ワイヤレスソリューション

明瞭な音声伝達 確実な相互コミュニケーション

従来の課題 検査室と操作室の間で、声が届きにくい

従来は、検査室マイク音声を操作室側で拡声した際、環境音や音質の影響で聞き取りづらく、確認に手間がかかる場面がありました。ワイヤレスのノイズキャンセリングヘッドホンを導入し、手元で音量・ミュートを調整しながら、明瞭な音声確認を可能にしました。構成機器は、長年の実績と知見に基づき選定し、現場要件に合わせて最適化しております。



中央放射線部 診療放射線技師様の声

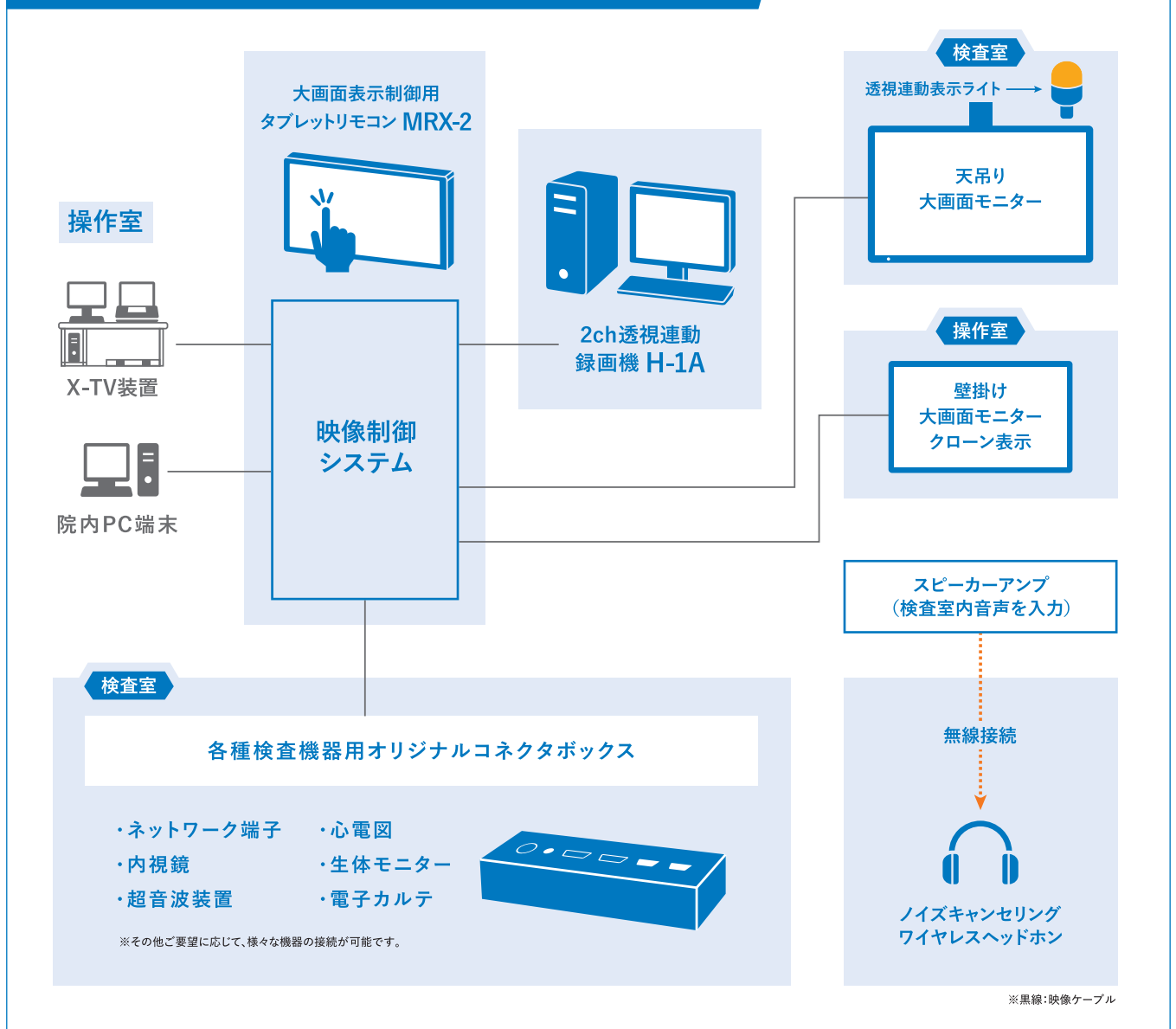
音声自体が以前より聞き取りやすくなったので、現状はヘッドホンを常用する場面は多くありません。一方で、周囲が騒がしいときなど検査室内の医師の指示確認を優先したい場面では、ノイズキャンセリングが有効だと思います。ノイズキャンセリングはON/OFFできるので、普段は周囲の音も拾いながら、必要な時だけ切り替えて使う運用を試していきたいです。

釧路労災病院
中央放射線部

診療放射線技師
泉浦 祐子 様



釧路労災病院様 大画面モニターシステム + PinP録画システム



釧路労災病院様より: 今後に向けた取り組み

タスクシフト・シェアと検査室の環境改善

医療におけるタスクシフト・シェアは、医師の負担軽減と多職種連携により、働きやすい環境づくりを進める取り組みです。診療放射線技師も法改正で業務範囲は広がりましたが、施設規模によっては人員不足などで十分に進めにくい現状があります。

釧路労災病院
中央放射線部

部長
浅野 淳一 様



装置の操作の
扱いやすさ

=

働きやすい環境

今回の導入では「狭い検査室でも働きやすい環境づくり」を重視し、録画・表示・照明・音声・配線まで含めて周辺環境を統合的に整備できるヒビノ社へ一括で依頼しました。そうすることでコストを抑えつつ作業環境を改善し、ストレス軽減や検査時間短縮を通じた医療の質向上を期待しています。

今後も、現場に寄り添う提案と継続サポートにより、
安心して運用いただける体制づくりに努めてまいります。



<https://www.hibino-intersound.co.jp/>

ヒビノ株式会社 ヒビノクロマテック Div. ビジネスソリューション部

〒105-0022 東京都港区海岸 2-7-70

TEL: 03-5419-1609 FAX: 03-5419-1610

URL: <https://chromatek.hibino.co.jp/medical/>